

≪行田特別支援学校の活性化・特色化方針≫

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部・高等部	R6.5.1 児童・生徒数	(男) 171 (女) 65	計 236 名
-----------	------	--------------	-------------	--------------------------	-------------------	---------

アクセス

HP * <https://gyoda-sh.spec.ed.jp/>

< J R 高崎線 >

・吹上駅下車

朝日バス：佐間経由行田折返し場行

または、総合教育センター行 } 「産業道路」下車 徒歩 15分

または、工業団地行 }

・行田駅下車

市内循環バス：南大通り線コース 工業団地行 「警察署前」下車 徒歩 5分

< 秩 父 線 > 行田市駅下車 徒歩 30分

<教育課程等>

- ・個別の教育支援計画（プラン A・B）に基づき、合理的配慮のもとに取り組む教育。
- ・卒業後の社会生活を見据えた、複数の教育課程による高等部の教育。
- ・「生(性)に関する学習 手引き」を活用した 12 年間の系統性のある教育。

<学校行事・部活動>

- ・地域の小・中・高等学校との交流学习の実施
- ・公共施設等での作品展示や高等部作業班の製品販売
- ・特体連の各種大会への参加。

<家庭・地域との連携>

- ・令和 6 年度からコミュニティ・スクール導入 ・学校公開の実施（年 2 回） ・学区域連絡協議会の開催（年 2 回）
- ・教育相談、巡回相談 ・インクルーシブ研修会 ・保護者自由参観の実施（年 1 回）
- ・事業所フェアの実施（夏季休業中） ・美術館・博物館、大学による出前授業

<進路>

- ・生徒の能力・適性に応じた柔軟な進路指導を行い、本人・保護者が納得した望ましい進路実現を目指す（一般就労・福祉事業所・グループホーム他）。
- ・「産業現場等における実習」をとおして、一人ひとりに設定した目標を達成することにより、自己の適性や能力をより確かなものに発展させることで、卒業後の進路を具現化することを目指す。
- ・卒業後は 3 年間の追指導（アフターケアの実施）を実施。
- ・障害者就労における専門家（就労支援アドバイザー）を外部から招聘し、より実践的な研修・指導を実施。
- ・高等部発展型生徒の就業体験（デュアルシステム）の実施。

	卒業者数	進 学	企業就労	福祉的就 労	その他
中学部	16	16	0	0	0
高等部	33	0	7	26	0

- ・16 名が本校高等部へ進学。
- ・主な企業就労先
埼玉センコーロジサービス株式会社、住友電工オプティフロンティア株式会社等（令和 5 年度卒業生）



令和6年度 埼玉県立行田特別支援学校 育成方針

国や県の動向

- ・学習指導要領
”社会に開かれた教育課程“
- ・第4期埼玉県教育振興基本計画
- ・生涯にわたる学びの推進
- ・コミュニティ・スクールの推進

豊かな学びで未来を拓く埼玉教育

学校教育目標

健やかな成長と幸福を目指す 地域と共にある学校



目指す学校像

- ・自己肯定感を高め、自他共に大切にしている児童生徒を育てる学校
- ・共生社会の基盤づくりに向けて特別支援教育の推進に寄与する学校

子どもファーストの教育課程
わかりやすい教育課程

学校経営方針

- ①児童生徒、保護者、教職員相互間での人格の尊重と信頼関係の確立
- ②児童生徒一人ひとりの「わかる」「できる」を大切に適切な教育支援の実施
- ③教員の専門性向上のための研修の促進とセンター的機能の充実
- ④社会に開かれた教育課程の実現と地域の教育力の活用

重点目標【自立】

- 1 2年間の一貫したキャリア教育と生（性）の学習の充実
- ①<ハッピーライフプロジェクト>
「生（性）に関する学習 手引き」の活用により系統性のある教育実践・保護者等相互理解
 - ②中学部・高等部での作業学習
(中：紙工芸班、木工班、手芸班、農園芸班)
(高：木工班、軽作業班、手工芸班、陶芸班、農園芸班、紙工芸班メンテナンス班)
 - ③高等部での卒業後の社会生活を見据えた複数の教育課程
(発展型・充実型・基礎型)
 - ④高等部（発展型）作業学習における就業体験（デュアルシステム）
 - ⑤就労支援アドバイザーや進路指導サポーターとして障害者就労における専門家を招致

重点目標【支援】

- 児童生徒の個々の課題に向き合う校内外支援体制の充実
- ①校内支援部の役割の充実
 - ②「行特虎の巻」による環境設定・視覚支援・教材等の充実
 - ③アセスメント活用による実態把握、目標設定・指導内容の選定までプランニングできる専門性の向上
 - ④学区域連絡協議会・インクルーシブ研修会・就学の教育相談・巡回指導の実施
 - ⑤ICTを活用した授業実践の充実
オンライン学習システム（Google Classroom）
Web会議アプリ（Google meet）（zoom）を使った
長期欠席者や学級閉鎖時の学びの確保

重点目標【連携】

地域社会との協働による相互理解と共生社会への土台づくり

- ①公共施設等での作業製品展示・販売
- ②事業所フェアの開催
- ③学校公開講座・研修会の開催
- ④ボランティア養成講座と学校ボランティアによる授業支援
- ⑤近隣小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習
- ⑥学校公開の実施
- ⑦保護者自由参観の実施
- ⑧コミュニティ・スクールの計画的推進
- ⑨美術館や博物館、大学等による出前授業

学部目標

小学部
【ともに まなぼう いきいきと】

中学部
【社会の中で健康的で豊かな生活を送るための基礎となる力を育てる。】

高等部
【人間として豊かに生き、すすんで社会参加できる力を育てる。】



「行特虎の巻」
埼玉県立行田特別支援学校が作成した【虎の巻】は、本校の教職員が日々の教育実践の中で作成した教材・教具や整備した教室環境をまとめたものです。
ワークシステムやトランジションエリアを活用した実践集も載っています。
【虎の巻】は第2巻まであります。

「生（性）に関する学習 手引き」
基礎編、行特シラバス編、実践編から編成され、全体指導計画、重点目標及び各学部での目指す目標、年間計画、学習に関する理念やルールなどが示されています。

健やかな成長と幸福を目指す

外部講師による生（性）の学習



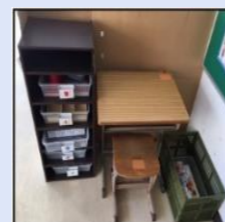
本校における生（性）の学習



学部間交流学習



作業頒布会



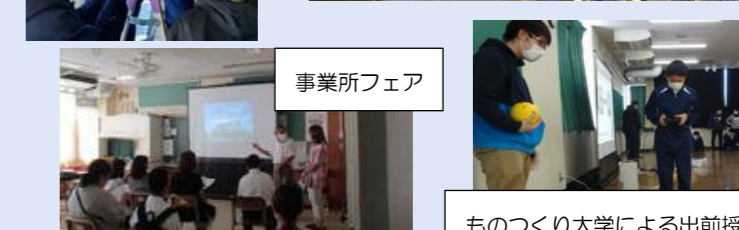
「行特虎の巻」実践例



地域と共にある学校



行田花手水 week への参加



事業所フェア



ものつくり大学による出前授業



行田消防署 見学



学校ボランティア



埼玉県立行田特別支援学校

児童生徒数：236名
小・92名 中・58名 高・86名